

2021 株式会社 有沢製作所 環境報告書

ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT



Dreams to Reality

2021 株式会社 有沢製作所 環境報告書

ARISAWA ENVIRONMENTAL REPORT

CONTENTS

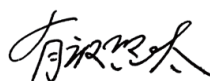
当社における環境活動	1	2021年度全社環境目標	6
経営方針	2	環境負荷物質低減の推進	7
環境方針	2	廃棄物の管理	9
カーボンニュートラルに向けた取組み	3	グリーン購入	9
SDGs(持続可能な開発目標)に対する取組み	4	環境苦情	10
推進体制	5	環境活動	10
2020年度環境目標・実績及び評価	5	環境情報の開示	11
環境負荷マテリアルバランス	6	会社概要	12

「2021 環境報告書」の対象範囲

- 対象期間 2020年度(2020年4月～2021年3月)
- 対象事業所 本社・南本町工場(含む敷地内アリスワフアイバークラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社)
中田原工場(含む敷地内有沢総業株式会社)
中田原西工場(含む敷地内有沢総業株式会社)

当社における環境活動

2021年10月
株式会社有沢製作所
代表取締役社長



アリサワグループは、「創造・革新・挑戦」を基本とした経営方針のもと、当社独自の「織る、塗る、形づくる」技術を駆使して技術革新と製品開発に取り組み、お客様のニーズにお応えすると共に、社会・環境課題の解決に貢献し企業価値の向上に努めてまいりました。

そうした活動を進める上で、持続可能な開発目標（SDGs）の達成を念頭に置き、2030年にCO₂の直接排出と間接排出についてカーボンニュートラルの達成を目標にし、エネルギー使用効率改善の取り組みを積極的に推進しております。更なる施策として、2021年7月より再生可能エネルギーの利用と、県内初となるカーボンニュートラルガスの購入を開始しました。また、環境目標には、環境負荷の低減を目指した製品・技術開発、有害物質の管理強化、環境法令の遵守、省エネルギー・省資源推進、環境関連教育の充実、環境ボランティア活動の実施の6つの分野を設定し、持続的な成長を実現すべき活動を継続しております。

当社の製品・技術開発におきましては、気候変動への対応、全ての人々の豊かな生活、資源循環と効率化を社会貢献の目標にして開発を促進しております。特にゼロエミッション車であるFCV（燃料電池自動車）の材料供給の開発に力を入れており、水素燃料電池車での使用が開始されました。

本報告書は、2020年度における当社の環境に関する活動をまとめたものとなり、当社の環境活動の状況をご理解いただければ幸いです。

今後も『昨日より今日、今日より明日』のスローガンのもと、地域社会の皆様と密接にコミュニケーションをとり、健全な存続と持続的な成長を実現する事業活動を継続してまいりますので、アリサワグループへの変わらぬご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

CIC 昨日より今日、今日より明日

～ 一歩ずつ前に進み、よりよい未来を作り上げよう ～

【 経営方針 】

「創造 Create」「革新 Innovate」「挑戦 Challenge」を基本とし、

- I. 新たな価値を創造し、顧客満足を高める。
- II. 顧客要求を発掘し、独創的な技術で新事業を創出する。
- III. 品質と生産性を向上させ、企業体質を強化する。
- IV. 社会・環境課題の解決に貢献し、持続的な成長を実現する。

【 私たちの行動指針 】

1. 他人と自分を比べるのではなく、昨日の自分と今日の自分を比べる。
2. モノづくりのプロとして、強い意志と謙虚な心を持って、未来に誇れる仕事をする。
3. できない理由を探すのではなく、挑戦への一歩を踏み出す。
4. 安全を最優先し、ゼロ災に向けて自分の役割と責任を果たす。

株式会社 有沢製作所

環境方針

当社は、電子材料、光学材料、電気絶縁材料及び産業用構造材料の開発・設計から製造に至るまでの事業活動全般において、環境に与える負荷の低減に努め環境保全を推進するとともに社会・環境課題の解決に貢献し、持続的な成長の実現を目指します。

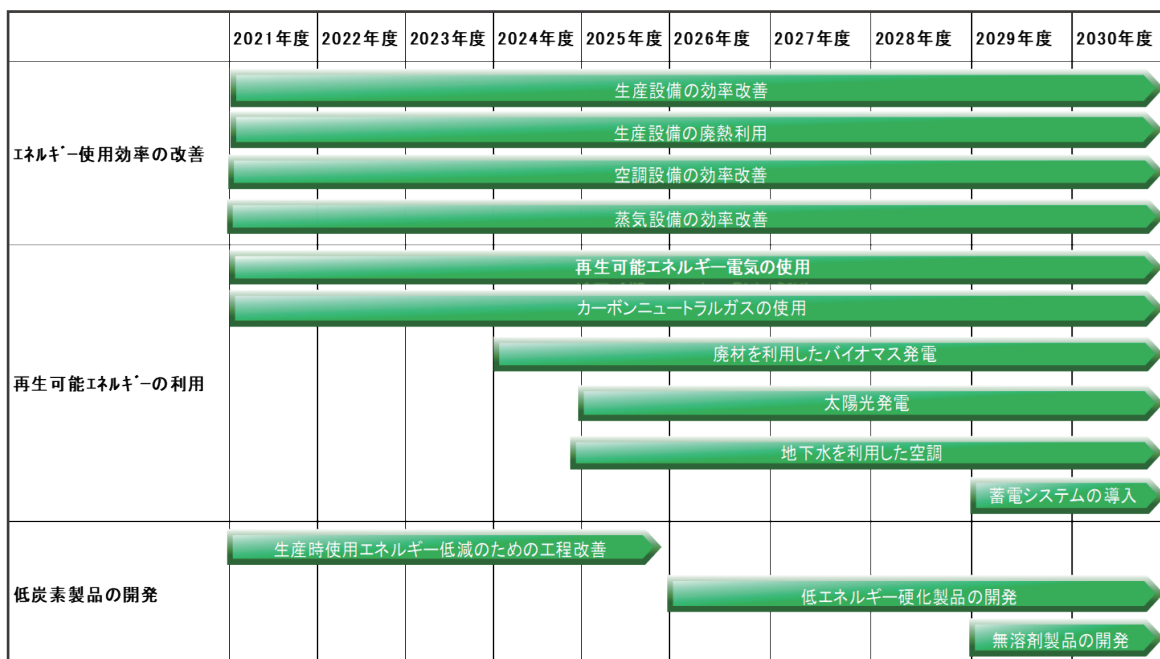
- ① 当社の事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を把握し環境汚染の予防に努める。
- ② 環境法規、規制、協定及び当社が同意したその他の要求事項を順守する。
- ③ 環境活動の推進に当たり、「環境目標」を設定・実行し、定期的に見直す。
- ④ 環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。
- ⑤ 環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。
- ⑥ 大気、水質、土壌汚染等の管理を強化し、生物多様性の維持に努める。
- ⑦ 省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。
- ⑧ 再生可能エネルギー、再生資源を導入し、温室効果ガスの抑制と循環型社会の形成に貢献する。
- ⑨ 環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、持続可能な社会を目指して責任ある行動を遂行できるよう、啓発を行う。
- ⑩ 内部環境監査、マネジメントレビューを定期的実施し、環境管理マネジメントシステムの継続的改善を図る。

この環境方針は、社内外に公表する。

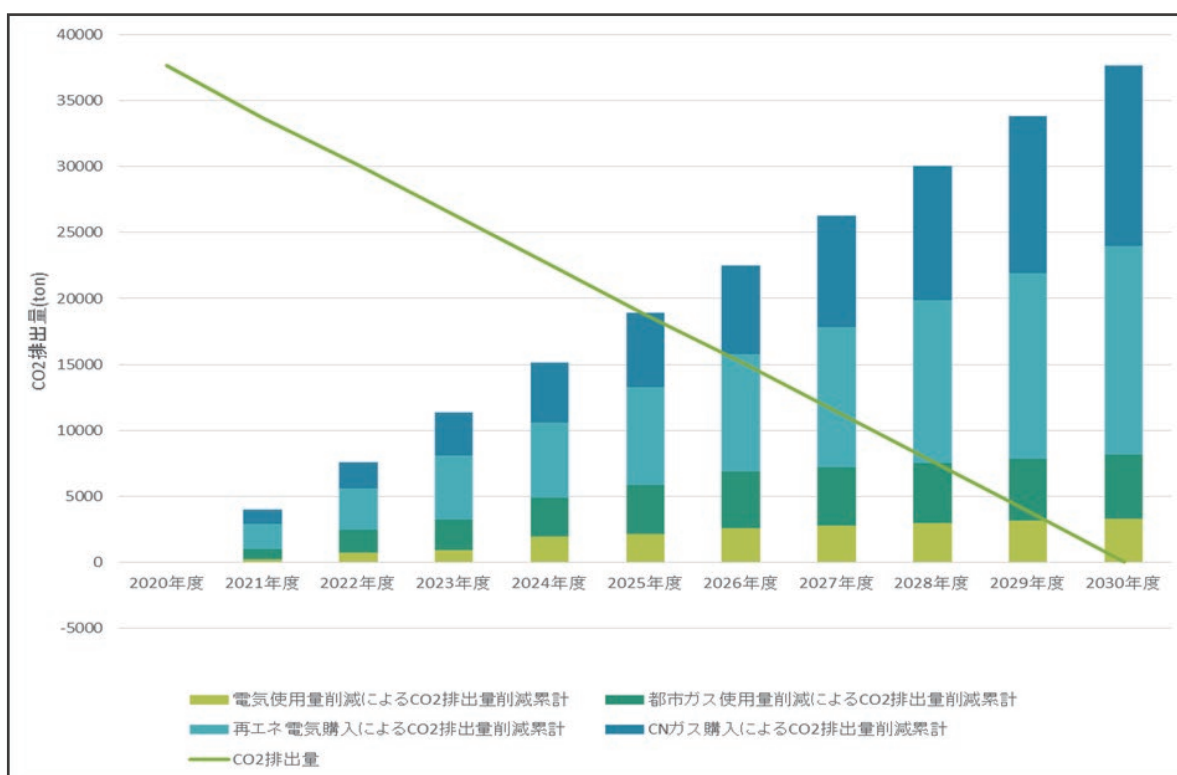
カーボンニュートラルに向けた取組み

当社はこれまでも様々なエネルギー使用効率の取組を実施してまいりましたが、今後はその取組を拡大すると共に、再生可能エネルギーの利用と低炭素製品設計を推進することにより、2030年度に二酸化炭素の直接排出（Scope1）と間接排出（Scope2）についてカーボンニュートラル達成を目指します。

カーボンニュートラルに向けた施策ロードマップ



CO₂ 排出量削減推移と内訳



再生可能エネルギー利用の施策の一つとして、当社は、2021年7月1日より再生可能エネルギー電気とカーボンニュートラルガスの購入を開始しました。カーボンニュートラルガスに関しては、新潟県内初の導入となります。

上越市 ガス水道局 様 HP [https://gwhp.city.joetsu.niigata.jp/customer/20210701carbon neutral/](https://gwhp.city.joetsu.niigata.jp/customer/20210701carbon%20neutral/)

INPEX 様 HP <https://www.inpex.co.jp/news/assets/pdf/20120701.pdf>

上越市ガス水道局 御中

カーボンニュートラル認定証書
Carbon Neutral Certificate

2021/8/31

上越市及び当社の間の2021年7月1日付株式会社有沢製作所（南本町工場・中田原工場）向けガスのカーボンニュートラル化に関する買書（以下「本買書」といいます。）に基づき、下記のとおりカーボンニュートラル化対象ガスについて対応するカーボンクレジットを無償化したことを認定します。

記

カーボンニュートラル化対象ガスの受渡先 : 株式会社有沢製作所 南本町工場及び中田原工場

カーボンニュートラル化対象ガスの受渡期間 : 2021年7月1日～7月31日

カーボンニュートラル化対象ガスの受渡数量 : 469,387 Nm³-41,8605MJ
=455,000 Sm³-45MJ

無償化されたカーボンクレジットの数量 : 1,189 トン-CO₂
(生産/炭化/海外輸送/国内製造/設備分: 188トン 標準分: 1,001トン)

カーボンクレジットの種類 : VCU (Verified Carbon Unit)

カーボンクレジットのシリアル番号 : 9903-136631728-136632916-VCS-VCU-263-VER-ID-14-674-23062017-31122017-1

カーボンクレジットの創出プロジェクト名 : Rimba Raya Biodiversity Reserve REDD Project

取得済み認証 : VCS認証, CCB認証, SD Vista認証

以上

当社は買書締結の名義人以外の者に対して本カーボンニュートラル認定証書に関して何らの責任を負うものではありません。

INPEX 株式会社 INPEX

〒107-6332
東京都港区赤坂五丁目3番1号 赤坂B12タワー
株式会社INPEX
国内エネルギー事業本部 ガス営業ユニット

VERRA

Verified Carbon Standard

Certificate of Verified Carbon Unit (VCU) Retirement

Verra, in its capacity as administrator of the Verra Registry, does hereby certify that on 18 Aug 2021, 1,189 Verified Carbon Units (VCUs) were retired on behalf of:

Arisawa Manufacturing Co. Ltd, a client of Joetsu City Gas and Waterworks Bureau, for carbon offset of natural gas by INPEX

Project Name
Rimba Raya Biodiversity Reserve Project

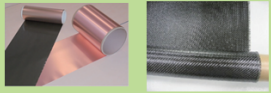


VCU Serial Number
9903-136631728-136632916-VCS-VCU-263-VER-ID-14-674-23062017-31122017-1

Additional Certifications
01: No Poverty; 02: Zero Hunger; 03: Good Health and Well-being; 04: Quality Education; 05: Gender Equality; 06: Clean Water and Sanitation; 07: Affordable and Clean Energy; 08: Decent Work and Economic Growth; 09: Industry, Innovation and Infrastructure; 10: Reduced Inequalities; 11: Sustainable Cities and Communities; 12: Responsible Consumption and Production; 13: Climate Action; 14: Life Below Water; 15: Life on Land; 16: Peace, Justice, and Strong Institutions; 17: Partnerships for the Goals; CCB-Biodiversity Gold; CCB-Climate Gold; CCB-Community Gold

Powered by APX

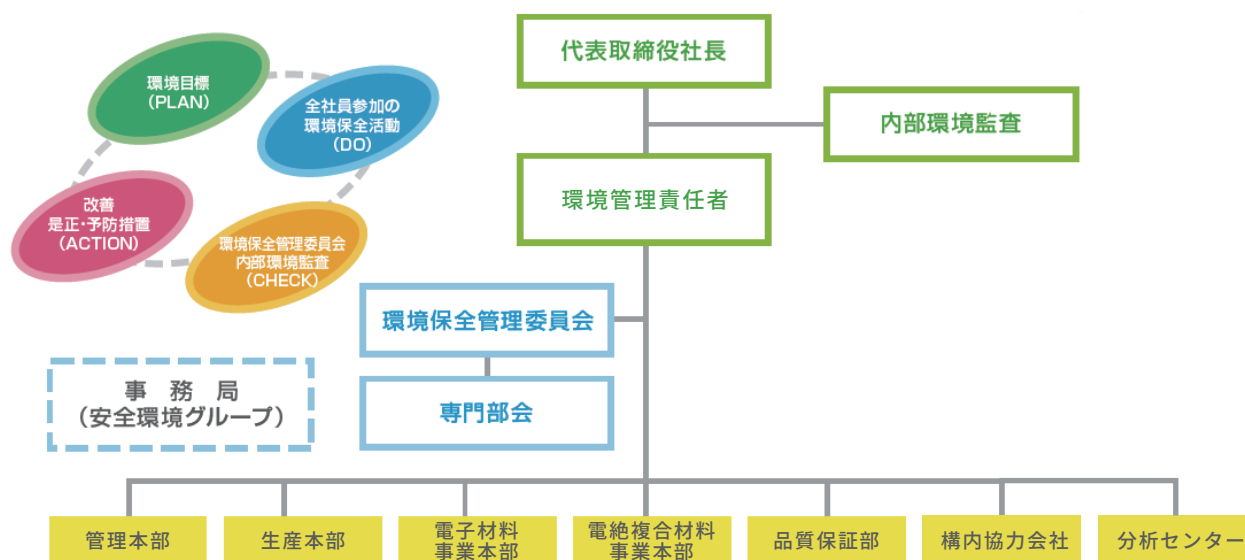
SDGs（持続可能な開発目標）に対する取組み

お客様・社会・環境に影響を与えるテーマを選定し、事業を通じて社会貢献を目指します。

社会貢献目標	気候変動への対応	全ての人々の豊かな生活	資源循環と効率化
重要テーマと 当社の貢献ストーリー	<p>再生可能・脱炭素エネルギー</p>  <p>FCV、EVへの材料供給により、CO₂排出抑制に貢献。 脱炭素新エネルギー開発に貢献。</p>	<p>ライフインノベーション・安全</p>  <p>自動運転支援、医療分野への材料供給により、人々の健康と豊かな暮らしの実現に貢献。</p>	<p>省エネ・省資源</p>  <p>EV、太陽光発電、水処理への材料供給、航空機への軽量化材料供給により、省エネ・省資源に貢献。</p>

推進体制

当社は市内3拠点に工場が分散し操業しています。環境保全推進体制は、その3拠点が一体となり、また構内関係会社も取り込んだ環境保全管理委員会を中心とした全社体制と、個別テーマを担当する専門部会によりPDCAのサイクルを回して取り組んでいます。



2020年度 全社環境目標・実績及び評価

No	環境目標	目標値	実績	
1	環境負荷の低減を指向した製品開発・技術開発を行う。	期間中に2件以上の開発を行う。	2件開発	達成
2	既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。	データ、保証書の入手(随時)	322件	達成
3	各グループにおける管理基準を遵守し、新たな環境汚染を発生させない。	環境法令違反ゼロ件	0件	達成
4	①生産効率のアップ、設備改良を図り、省エネに取り組む。	①-1 南本町工場の省エネルギー 目標値: エネルギー量 kL 過去実績比 1%削減 又は エネルギー量 kL/加工高 前年度比 1%削減	エネルギー量 kL 過去実績比 9.3%削減 エネルギー量 kL/加工高 前年度比 6.1%削減	達成
		①-2 中田原・中田原西工場の省エネルギー 目標値: エネルギー量 kL 過去実績比 1%削減 又は エネルギー量 kL/加工高 前年度比 1%削減	エネルギー量 kL 過去実績比 4.3%削減 エネルギー量 kL/加工高 前年度比 1.1%削減	達成
	②各部門の業務遂行段階において、産業廃棄物削減に取り組む	2019年度産業廃棄物排出量/生産高 実績比の1%削減 又は産業廃棄物排出量 t 過去平均比の1%削減	産業廃棄物排出量/生産高 前年度比 11.1%削減 産業廃棄物排出量 過去平均比 5.5%削減	達成
5	①一般教育訓練の実施 ②特定業務従事者教育の実施 ③雇入れ又は異動者教育訓練の実施	①各部門年1回実施 ②該当部門年1回実施 ③雇入れ、異動時	①実施済 ②実施済 ③随時実施	達成
6	①環境ボランティア活動の実施 ②環境報告書の発行	①年1回以上 ②10月発行	①1回実施 ②10月発行	達成

環境負荷マテリアルバランス

INPUT

	2020年度	2019年度
◇エネルギー投入量		
燃料 (原油換算)	9,190 KL	9,619 KL
○都市ガス	7,916 千m ³ N	8,285 千m ³ N
○A重油	0	0
○LPG	5.0 ton	5.0 ton
電力 (原油換算)	9,814 KL	10,022 KL
○電力	39,205 千kWh	40,021 千kWh
◇購入品	10,004 ton	8,933 ton
原材料	9,027 ton	7,940 ton
うち有機溶剤	563 ton	631 ton
副資材	977 ton	993 ton
◇水資源投入量		
総投入量	427.6 千m ³	445.7 千m ³
○上水	186.2 千m ³	197.2 千m ³
○地下水	241.4 千m ³	248.5 千m ³

OUTPUT

	2020年度	2019年度
◇CO ₂ 排出量	38,266 ton	39,731 ton
●燃料分	17,779 ton	18,606 ton
●電力分	20,487 ton	21,125 ton
◆有機溶剤大気排出量		
●PRTR対象物質	127 ton	151 ton
◇産業排出物	1,824 ton	1,966 ton
●リサイクル(再生使用)	1,763 ton	1,890 ton
●埋立処分	61 ton	76 ton

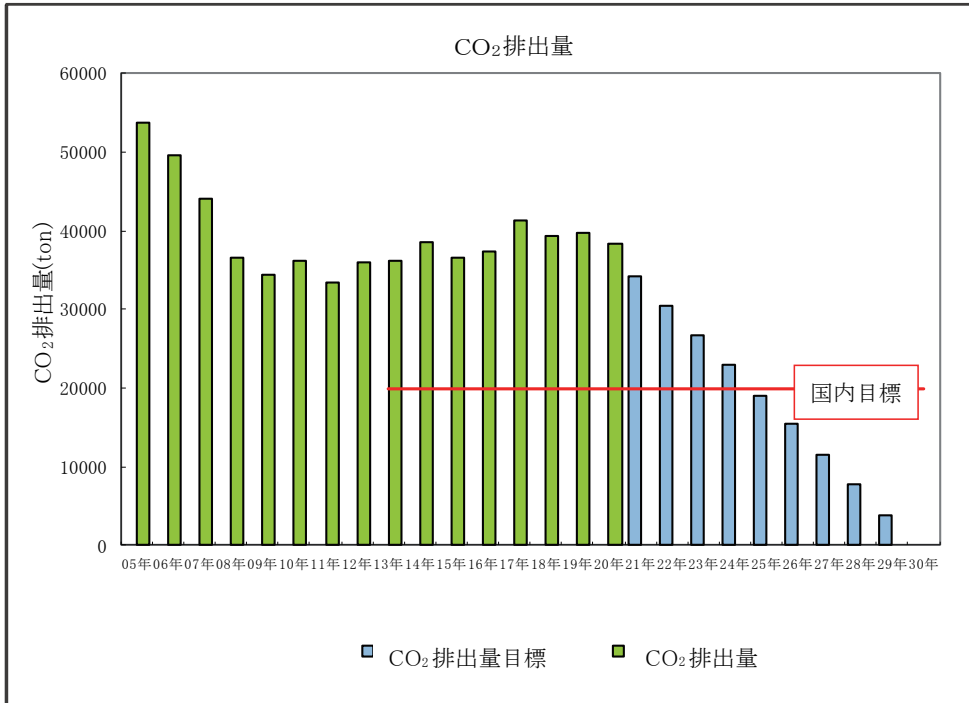
2021年度 全社環境目標

No	環境方針	環境目標	目標値
1	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	環境負荷の低減を指向した製品開発、技術開発を行う。	期間中に2件以上
2	環境に影響を与える可能性のある有害化学物質の管理強化を行う。	既存購入仕様書の環境有害物質の調査を行う。	データ、保証書の入手(随時)
3	大気、水質、土壌汚染等の管理を強化し、生物多様性の維持に。	各グループにおける管理基準を遵守し、新たな汚染を発生させない。	環境法令違反ゼロ件
4	省資源、省エネルギー、産業廃棄物の削減、リサイクルの推進に取り組む。	① 省エネルギー(電気・都市ガスの削減)	①-1 南本町工場 エネルギー量 kL 又はエネルギー量 kL/加工高 過去実績比 1%削減 ①-2 中田原・中田原西工場 エネルギー量 kL 又はエネルギー量 kL/加工高 過去実績比 1%削減
		② 産業廃棄物総排出量の削減	② 2019年度産業廃棄物排出量/生産高実績比の1%削減 又は 産業廃棄物排出量 t 過去平均比の1%削減
5	環境教育を通じ全社員の意識向上を図り、持続可能な社会を目指して責任ある行動を遂行できるよう、啓発を行う。	① 一般教育訓練の実施(SDGs定着のための教育) ② 特定業務従事者教育の実施 ③ 雇入れ又は異動者教育訓練の実施	① 年1回実施 ② 年1回実施 ③ 雇入れ、異動時
6	その他環境活動	① 環境ボランティア活動の実施 ② 環境報告書の発行	① 年1回以上 ② 10月HP掲載

環境負荷物質低減の推進

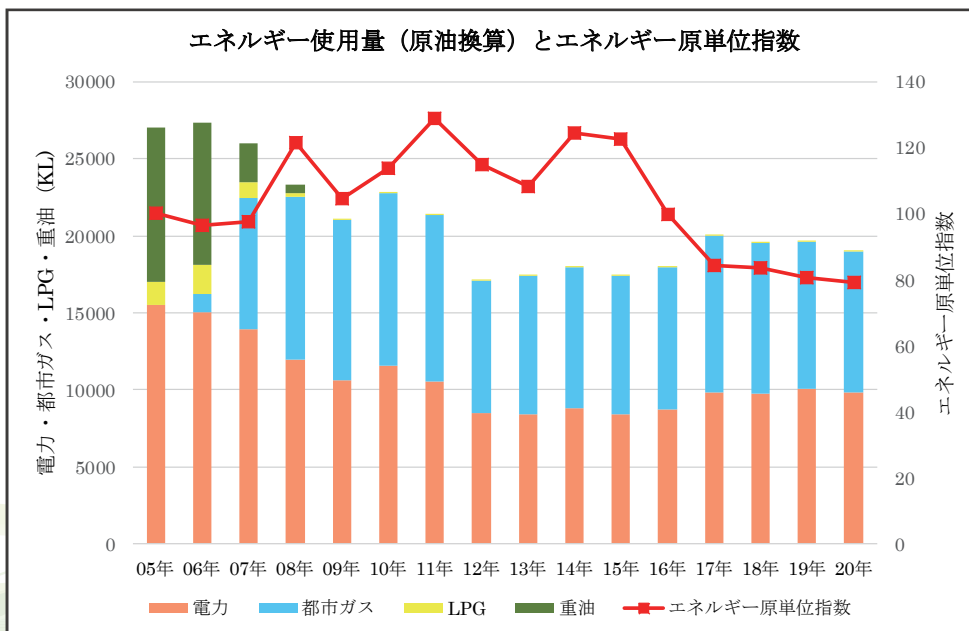
I. CO₂ 排出量の削減

昨年度より CO₂ 排出量は 1,464t-CO₂ を削減しております。
 2030 年度に、CO₂ の直接排出 (Scope1) と間接排出 (Scope2) についてカーボンニュートラル達成を目標に、
 2021 年度は、エネルギー使用効率の取組みを継続すると共に、再生エネルギーとカーボンニュートラルガスの使用を開始し、目標達成を目指します。
 2030 年度までに 2013 年度比 45%削減する国内目標に対して早期達成を見込んでおります。



II. エネルギー使用量

昨年度より電力は 2 0 8KL、都市ガスは 4 2 9KL 使用量を削減しております。
 エネルギー原単位指数も 7 9ポイントとなり、昨年度より 2ポイント減少しております。



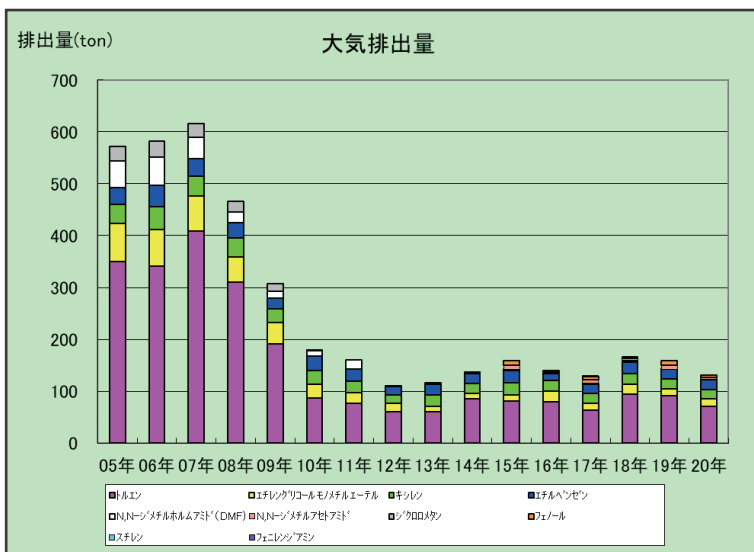
※原単位指数：基準年（2005年）の原単位を基準として、経年の原単位を指数化

Ⅲ. PRTR 法対象化学物質

PRTR 第一種指定化学物質の大気排出量（届出対象分）は、前年度と比べ約 16% 減の 127 ton でした。

(単位：ton)

政令番号	物質名	取扱量	移動量	大気排出量
31	アンチモン及びその化合物	1.7	0.3	0.0
53	エチルベンゼン	31.2	6.1	18.4
58	エチレングリコールモノメチルエーテル	26.0	5.9	14.6
80	キシレン	31.2	6.0	18.2
213	N,N-ジメチルアセトアミド	19.3	1.6	3.9
232	N,N-ジメチルホルムアミド	2.5	0.4	1.0
240	スチレン	5.6	2.6	0.0
300	トルエン	156.9	25.6	70.7
349	フェノール	1.3	0.0	0.0
352	フタル酸ジアリル	1.7	0.2	0.0
405	ホウ素化合物	1.2	0.0	0.0



PRTR (Pollutant Release and Transfer Register : 化学物質排出移動量届出制度) とは、有害性のある多種多様な化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表する仕組みです。

Ⅳ. 水質汚濁物質の対策

公共用水域に排出される特定施設に関わる水質汚濁物質は、すべて適正な処理を施した後、排水しております。今後も定められた監視と測定を行い、排水基準を順守していきます。

Ⅴ. 土壌汚染の対策

地下水基準値を超過したエリアでは、揚水曝気浄化処理を行い、還元分解され汚染濃度範囲が縮小するなどの浄化効果を確認しています。引き続き、行政の指導のもと、敷地外部への影響についてもモニタリングするなど、適正に対策を推進していきます。

また、今後実施する事業所の統廃合や再構築等での土地の形質変更時には、改正土壌汚染対策法に基づき、届出・調査・報告を適正に実施するとともに、調査結果の情報開示と汚染が確認された場合の対策に努めます。

廃棄物の管理

1) 産業廃棄物の発生量

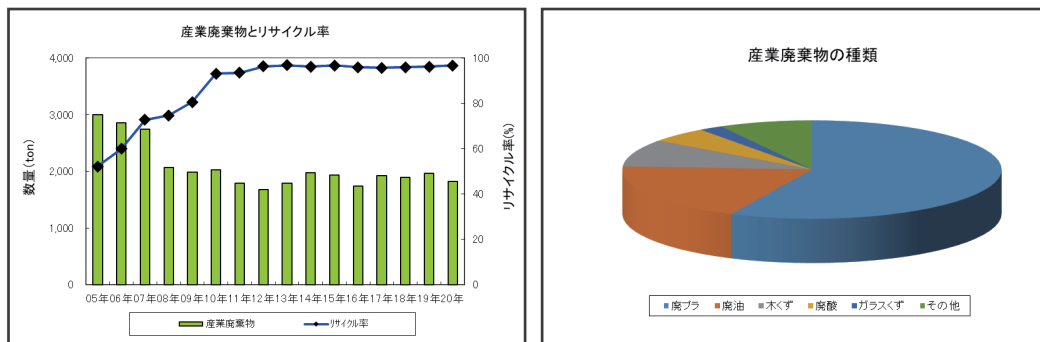
産業廃棄物の発生量は、1,824 tonでした。また、産業廃棄物の内訳は、廃プラスチック類5.7%、廃油1.9%、木くず9%、廃酸5%、ガラスくず2%、その他8%でした。

2) 産業廃棄物のリサイクル化

積極的なリサイクル化（サーマルリサイクル又はマテリアルリサイクル）を継続して進めており、2020年度のリサイクル率は96.7%となりました。

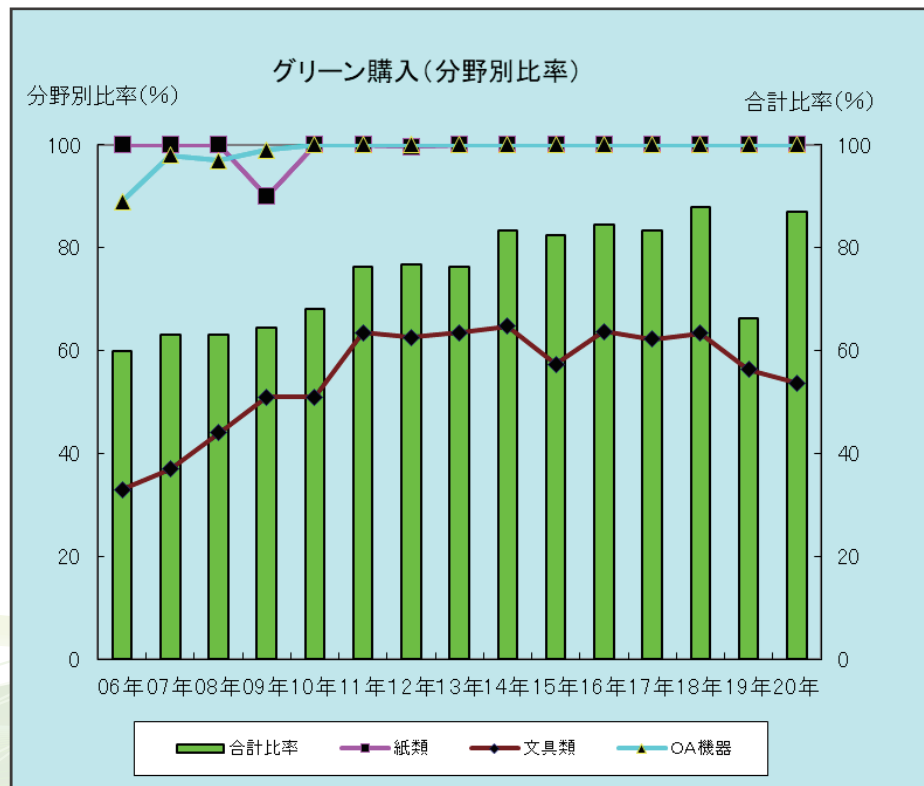
3) 産業廃棄物の処理委託

当社は、処分業者に産業廃棄物の処理を委託しています。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)」等の適正な法令に従い、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を適切に交付し、最終処分先に至るまで確認をおこなっています。また、処分業者へは現地確認（書類審査を含む）を実施し、当社の排出物が適正に処分されていることを確認しています。



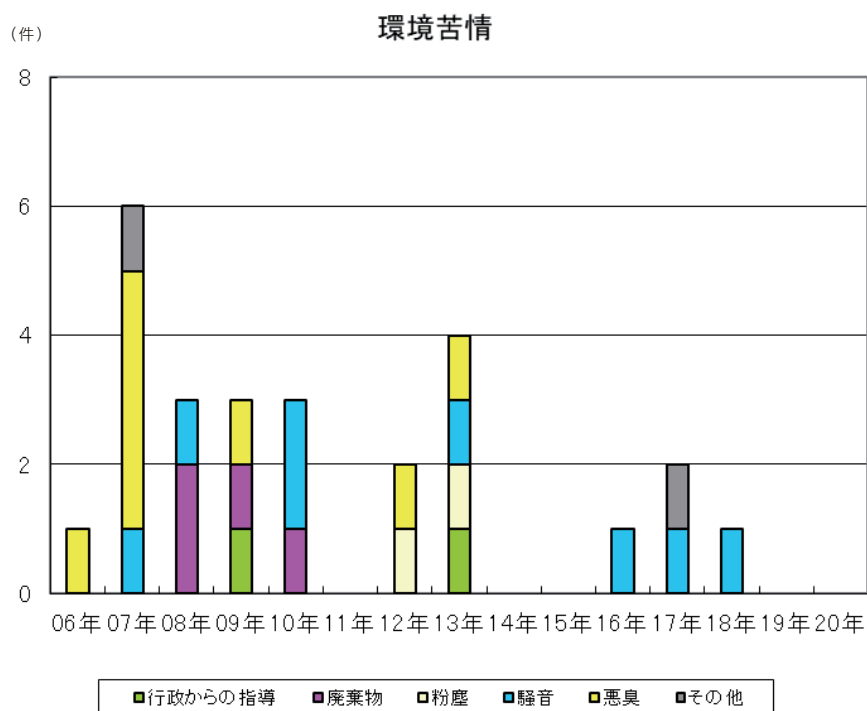
グリーン購入

グリーン購入比率は、金額ベースで86.9%になりました。



環境苦情

2020年度の環境苦情はありませんでした。今後も環境情報に対し、関係者の皆様とコミュニケーションを
活発にして機敏に対応してまいります。

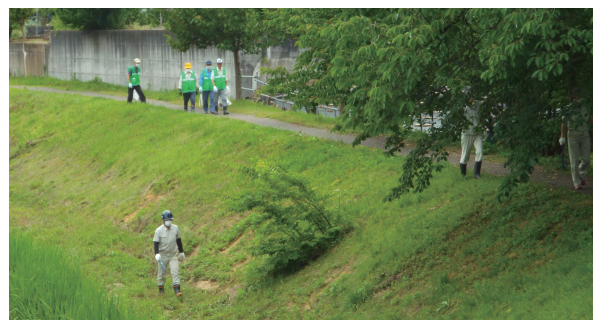


環境活動

2021年6月18日

第28回青田川クリーンアップ活動に参加

青田川の一斉清掃「クリーンアップ活動」に参加しました。川沿いの町内会や事業所、県、市の職員、
地元小学校児童等総勢約500人が参加し、清掃活動を実施しました。



アリサワ eco ウォークラリー

毎年恒例の全社環境行事として、地域のゴミ拾いを行なうウォークラリーを実施しておりましたが、
新型コロナウイルスの影響で中止と致しました。2022年度の開催を予定しております。

[南本町工場]

◆水質 (排水口 No.10...青田川排水口)

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8 ~ 8.6	7.4
BOD	mg/L	60	10.9
SS	mg/L	60	3.9

◆大気

	項目	単位	排出基準	測定結果
ポイラー	ばいじん	g/ m ³ N	0.10 未満	*
	NOx	ppm	150 未満	19 ~ 64

[中田原西工場]

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	7.5
	BOD	mg/L	300 未満	12.5
	SS	mg/L	300 未満	9.1
B 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
C 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
D 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**

[中田原工場]

◆水質 (排水口 No.2)

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8 ~ 8.6	7.8
BOD	mg/L	25	2.3
SS	mg/L	50	9.9

◆水質 (排水口 No.7)

項目	単位	排出基準	測定結果
pH	-	5.8 ~ 8.6	7.6
BOD	mg/L	25	3.0
SS	mg/L	50	3.9

◆大気

	項目	単位	排出基準	測定結果
ポイラー	ばいじん	g/ m ³ N	0.10 未満	*
	NOx	ppm	150 未満	38 ~ 65

◆下水道排水

	項目	単位	排出基準	測定結果
A 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	7.9
	BOD	mg/L	300 未満	11.3
	SS	mg/L	300 未満	7.1
B 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
C 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	**
	BOD	mg/L	300 未満	**
	SS	mg/L	300 未満	**
D 路線	pH	-	5.7 超 ~ 8.7 未満	7.3
	BOD	mg/L	300 未満	77.0
	SS	mg/L	300 未満	5.5

* 測定年度対象外
** 流量不足のため測定不可

検査機関：一般財団法人 上越環境科学センター

会社概要 (2021年3月31日現在)

社名	株式会社有沢製作所
代表者	代表取締役社長 有沢 悠太
創業	1909年(明治42年)4月8日
設立	1949年(昭和24年)7月1日
資本金	7,623百万円
売上高	単体: 31,668百万円(連結: 46,439百万円)
経常利益	単体: 1,932百万円(連結: 3,578百万円)
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	電子材料、ディスプレイ材料、電気絶縁材料、産業用構造材料などの製造・販売
工場	南本町工場 新潟県上越市南本町一丁目5番5号 中田原工場 新潟県上越市大字中田原1番地 中田原西工場 新潟県上越市大字中田原55番地

関連会社

社名	アリスワファイバークラス株式会社
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	ガラスクロス、ガラステープの製造
社名	有沢総業株式会社
本社	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
事業内容	倉庫管理・物流業務全般

ISO14001認証

組織の名称	株式会社有沢製作所
所在地	〒943-8610 新潟県上越市南本町一丁目5番5号
対象事業所	本社・南本町工場(含む敷地内アリスワファイバークラス株式会社、敷地内有沢総業株式会社) 中田原工場(含む敷地内有沢総業株式会社) 中田原西工場(含む敷地内有沢総業株式会社)
適用規格	ISO14001:2015
登録日	2007年6月18日